

2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 <概評> ・国際交流センターが所管する留学生科目の方針については、各学部・学科との今後の協議が期待される。 ・教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性については、「学校法人大東文化学園自己点検・評価推進委員会」と「大東文化大学自己点検・評価委員会」が責任主体となり検証しているが、検証の過程において、学生への周知に関する有効性を検証できていないとしており、周知に向けた今後の検討を期待したい。
2016 年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題 （2016 年度点検・評価シート IV 次年度への課題 より転記） 学部 FD 活動を通じて、教員に対して「教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針」について改めて周知する機会を設けるとともに、それらについての周知度を測るアンケート等を実施する。

Ⅰ 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学部
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-1	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 【自己評定 A】
点検・評価項目(1)	4-1-1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示
	教育目標と学位授与方針との整合性
	修得すべき学習成果の明示
点検・評価項目(2)	4-1-2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
点検・評価項目(3)	4-1-3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(4)	4-1-4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ 点検・評価 対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-1-1	スポーツ・健康科学部は、学部教育研究上の目的に基づき、以下のように学位授与方針を明文化している。 スポーツ・健康科学部は、所定の単位を修得し、以下のような能力を備えていると認められる学生に卒業を認定し、学士（スポーツ科学または健康科学）の学位を授与する。 1. スポーツ・健康科学分野の基礎知識、基礎理論、専門知識を総合的、学際的に理解することができる。 2. 幅広い教養と国際的な感覚を身につけ、グローバルな視点からスポーツ・健康科学を分析し、実践していくことができる。 3. 人間性を重視すること、すなわち強い責任感、高い行動力、モラル、情熱、人間愛、思いやりの心などを持っている。 4. 自己のキャリアを切り開いていく強い意欲を持ち、また倫理観を身につけた上で、社会の発展に能力を役立てるという使命感を持っている。 5. スポーツの振興、健康の増進などの社会的使命を基にして、社会貢献、地域貢献等を通じて、スポーツ・健康科学を社会に広めていくことができる。 6. 地域社会や国際社会に適応し、そのニーズに応えられる能力を持っている。
4-1-1	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 学位授与方針の策定について【○】 具体的事例：両学科に学位授与方針をはじめとする「アドミッション、カリキュラム、ディプロマ・ポリシーの見直し作業」の作業部会を設置し、学内で設定されている見直しの方針に則り見直し作業に取り組んでいる。学位授与方針の改善案について

	は、学科協議会・学部教授会に提案し策定を目指す。(根拠資料：教授会での報告)
4-1-2	スポーツ・健康科学部は、教育目標と学位授与方針を踏まえ、学部の教育課程の編成・実施方針を、以下のように定めている。 スポーツ・健康科学部は、さまざまな教育プログラムを駆使して社会に適応できる人材、地域社会・国際社会で活躍できる人材、またスポーツ・健康の分野で役立てる知識・技能・応用力を修得した人材を育成するため、全学共通・基礎教育・専門教育科目の中に必修科目や選択科目を配置して、系統的な履修を進めることが可能となるよう、以下の方針でカリキュラムを編成している。 1. 全学共通科目は、できるだけ広い分野に関連した内容を、興味をもって学習できるように配慮し、履修により深い教養と豊かな人間性を育成する。 2. 基礎教育科目は、基本的かつ専門的な知識の理解を深めさせるとともに、一人の人間として自立し、多面的で総合的な視点から主体的な判断を下すことができる力を育成する。また、運動と人体についての基礎知識を学ぶために、「スポーツ科学概論」「健康科学概論」を導入科目として、スポーツ科学と健康科学の最新知識を学習する。 3. 履修内容は両学科で多少異なるが、専門職としてスポーツ及び医療の社会で活躍できる知識、技能などを有する人材を育成するために、専門教育科目を配置している。 科目区分、必修・選択の別、単位数等については、学則及び学部の履修の手引き『羅針盤』等で明示している(A4-1-1 第23条の25～27、A4-1-14 p.48～p.58、p.64～p.76、p.78～p.84、B4-1-12 d2-表21)。
4-1-2	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 (1) 教育課程の編成・実施方針の策定について【○】 具体的事例：両学科に学位授与方針をはじめとする「アドミッション、カリキュラム、ディプロマ・ポリシーの見直し作業」の作業部会を設置し、学内で設定されている見直しの方針に則り見直し作業に取り組んでいる。教育課程の編成・実施方針の改善案については、学科協議会・学部教授会に提案し策定を目指す。(根拠資料：教授会での報告) (2) 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示について【×】 具体的事例：
4-1-3	学部と両学科の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は、ホームページで公表している(B4-1-2)。学部の履修の手引き『羅針盤』には、学部の教育目標と2つの方針を、高校生向けの『大学案内(CROSSING)』には、両学科の2つの方針を掲載し、学生や受験生に周知を図っている(A4-1-14p.4～p.8、A4-1-4 B4-1-12 d2-表1)。
4-1-3	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 (1) 大学構成員への周知方法と、その有効性について【○】 具体的事例：前年度からの課題として、「教員に対する“教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針”の周知と、その周知度の検討」をあげているが、今年度はこれら目標・方針について見直して改善案を提案する作業部会を各学科に設置している。したがって、今年度は作業部会からの提案をもとに学部・学科内で上記の目標・方針について理解を深め、周知の機会を設ける。適宜、学部主催のFD活動の一環として実施する教員研修会開催時に、周知度を測るためのアンケート調査を実施する。学生に対しては次年度の年度初めのガイダンスおよび新入生に向けた授業開始前オリエンテーションにおいて、周知する機会を設ける。 (2) 社会への公表方法について【×】 具体的事例：
4-1-4	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性については、毎年度、学科の自己点検部局委員会において定期的に検証を行っている(B4-1-6)。
4-1-4	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

4-1-1	
4-1-2	
4-1-3	
4-1-4	

【改善すべき事項】

4-1-1	
-------	--

4-1-2	
4-1-3	大学構成員（教職員および学生等）への周知度の具体的な検証方法については検討したが、具体的な方策については具体化できなかった。
4-1-4	

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標			評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4-1-3 大学構成員に対する教育目標、 学位授与方針および教育課程の編 成・実施方針の周知度を継続的に 検証するシステムを構築する。	検証システムの構築と検証結果の公表	→		B	A	
16 年度 目標	4-1-3 大学構成員に対する教育目標、 学位授与方針および教育課程の編 成・実施方針に関する具体的な周 知法を検討・実施する。	大学構成員（教職員および学生等）への 周知度の具体的な検証方法について、学 部教授会に提案			B		
17 年度 目標	4-1-3 各学科に教育目標、学位授与方 針および教育課程の編成・実施方 針を見直し改善案を提案する作業 部会を設け、これらの改善を通じ て教員への周知を図る。	作業部会による左記改善案の学部教授会 への提案を通じた教員への周知				S	

Ⅳ 評価専門委員会所見

4-1-1、4-1-2(1)、4-1-3(1)は成果有り(○)と記述されています。 4-1-3(1)大学構成員への…[○]の具体的事例で「…周知の機会を設ける。」「…アンケート調査を実施する」「…周知する機会を設ける。」等の記述は、今後の計画で、具体的事例とは言えないのではないのでしょうか。
--

Ⅴ 所見への対応

4-1-3(1)「…具体的事例で「…周知の機会を設ける。」「…アンケート調査を実施する」「…周知する機会を設ける。」等の記述は、今後の計画で、具体的事例とは言えないのではないのでしょうか。」との指摘をいただいております。 前年度からの課題として該当欄に記述している点に対して、今年度の取り組みとして作業部会を設置しており、この作業部会をもとにした今年度の活動予定を記したものであります。「新たな取り組み」（作業部会を設置し、何をするのか）についての説明を加えるために記しました。

Ⅵ 次年度への課題

今年度、教員研修会開催時に、教員に対して教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針についての周知度を測るためのアンケート調査を実施した。次年度には、学生に対して同様の方法を用いて周知度を測る取り組みを実施する。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-1-1	大東文化大学学則	《既出》A1-1
A4-1-4	大学案内「CROSSING2017」	《既出》A1-6
A4-1-6	2017 年度諸資格課程履修の手引き	
A4-1-14	スポーツ・健康科学部 羅針盤（履修の手引き）2017	《既出》A1-14
A4-1-17	学校法人大東文化学園自己点検・評価規程	
B4-1-1	大学ホームページ（建学の精神・教育の理念） 大東文化大学の基準別基本方針	http://www.daito.ac.jp/information/about/idea.html http://www.daito.ac.jp/information/about/basicpolicy.html
	《既出》B1-5	
B4-1-2	大学ホームページ（情報公開）	http://www.daito.ac.jp/information/open/index.html 《既出》B1-6

B4-1-6	大学ホームページ（自己点検・評価活動） http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html 既出 》B1-16
B4-1-11	2017 年度ガイダンス日程表（学部・研究科）
B4-1-12	大学データ集 既出 》B1-22
〔追加資料〕	